

10年後のきみへ



大切なあなた

心は目には見えません。けれどもイメージすることはできます。ほうら、あなたの心はこんなにも色とりどりで、そこにはいくつもの未知なる扉が広がっています。

扉の形も、大きさも様々です。

あなたが「いびつだなあ。」と思っている色や形をどうか切り捨てないでください。

それは大切なあなたの一部なのです。

あなたには、足りないもの、切り捨てるものは何一つありません。



おかえり！ ようこそ！ 図工の先生！

— ここが私の原点 —

15年前の4月2日。私は8年ぶりに母校に帰ってきた。
あの懐かしい絵の具の香りがする図工室が今日から私の仕事場だ。これから出会う子ども達。教師生活。期待に胸を弾ませながら校門をくぐったあの日のことが忘れられない。

短大で美術教師の免許を取得してすぐに母校へと赴任した20歳の新米先生は子ども達にとって友達先生以外の何者でもなかっただろう。

授業が授業にならない日々に、「明日は子ども達の前に
恥ずかしくて立てない…」

そう思うこともしばしばあった。こんなダメダメ先生だったが、ダメダメ先生の図工室に子ども達は毎日足を運んでくれた。

「ひろセン（わたしのこと）！来たで！」



「センセ！なんか作りたい！」

休み時間や放課後の図工室を訪れる子ども達はペン
の整理整頓を口実に、家族のことや夢中になっている
あの子のことなど色々な話を聞かせてくれた。しかし
その屈託のない笑顔の裏には家庭状況などの環境的な
課題や、人への信頼感の喪失などの個人的な問題を抱
えている子も多かった。中には固く心を閉ざし、図工
の授業に向かう余裕がない、更には学校に来ることが
困難なため、放課後や長期休みに顔を見せてくれる子もいた。

「この子達の不安や寂しさの根っこはどこにあるのかな？」

子ども達はそんな問題提起をいつも私に投げかけてくれていたように思う。

図工室が子どもたちにとっての一つの居場所となったことが、子ども達との対話を重ねるきっかけとなった。



勘太との出会い

母校に赴任して1年目に受けもった5年生の子ども達との出会いは、とても特別な思い出として記憶に刻まれ

ている。中でも勘太との出来事は衝撃的しょうげきてきだった。

幼い頃に父親母親と生き別れた勘太は、祖母と兄と暮らしていた。おばあちゃんっ子の勘太は、参観日に祖母の姿を探すも見つからず、不機嫌ふきげんな様子で3時間目の図工にやってきた。

「ばあちゃんがこおへん。」

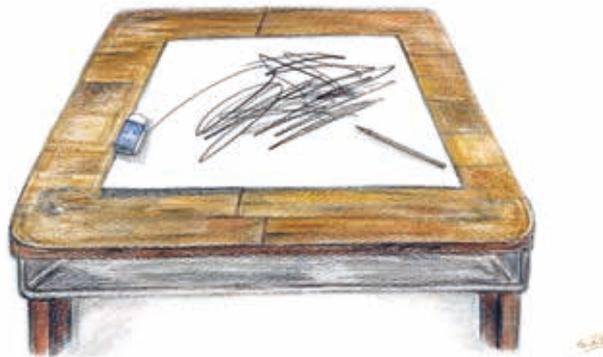
その瞬間勘太の不安は爆発ぼくはつ。隣の女の子の作品にちょっかいをかけ始め、とうとう作品が汚れてしまった。

「先生！勘太が！」と周りの子ども達も大ブーイング。最悪の参観日だ。

新米先生ひろセンにとっても、子ども達にとってもこれほどのパニックな状況はなかっただろう。「なんでこんなことになったんや！」と勘太に問いつめると、「先生、俺がやったとおもとるんか！」と返ってきた。担任、学年団で結成されたチーム勘太が出勤する騒ぎとなった。

「あの子を振り向かせたい！もっと分かりあいたい！あの子の目が輝く図工の授業をしたい！」

退勤前、更衣室での私は絶望のどん底だったが、同時に毎日新しい夢を与えてくれたのも勘太、そして勘太を取り巻く温かい子ども達だった。



10年後の君へシリーズ!

勘太達が6年生になり、いよいよ卒業式も間近に迫った2月。最後の図工で何かサプライズをしたいと思い立った私は4年生から3年間使ったクロッキー帳の返却の際、最後の空白ページに子ども達の10年後の姿を描くことにした。卒業生40名。今からコツコツ描けば間に合う!一ヶ月前からコツコツと描き始め、新米先生ひろセンの勝手な想像で描き上げられた卒業生はみんな美男美女だ。描きながら一人ひとりの心が私の中に現れるような不思議な気持ちになった。

いよいよ小学校6年間で最後の図工の日。クロッキー帳のサプライズ贈呈式が始まった。淡々と返却していく間、1人の子が気がついた。

「うわ!なんか先生描いてくれてる!」

クラスにどよめきが起こる。

「私めっちゃ美人すぎる!」



「おれ、誰か芸能人に似てへん?!」

「おまえのも見せてや!」

「ってか、勘太めっちゃイケメンに描いてもらってるやん! いいなあ!」

その瞬間、勘太がみんなの前でクロッキー帳を破った。

図工室は一気に静まり返るが、誰も勘太を責めはしない。ただ心配そうに1人たたく勘太を見つめている。

「そうかぁ。次は先生、もっとええ感じに描いたる!」

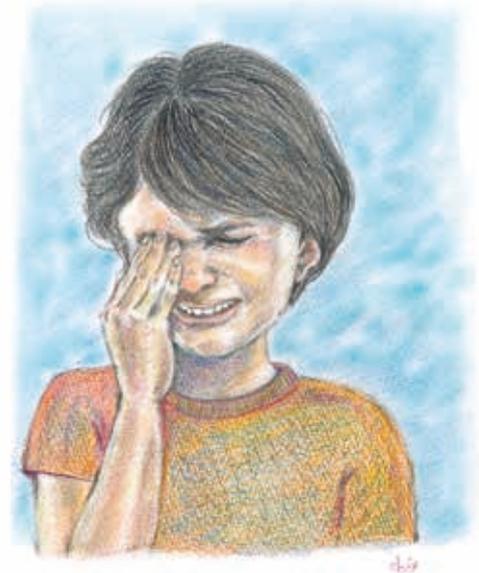
その日の放課後、担任の先生にお叱りを受けた勘太が申し訳なさそうに図工室にやってきた。

「先生ごめんなさい。ちょっとはずかしかった。でも、もう一回描いてほしいです…」

「実はもう描いといたよ。ほら。」

顔を上げた勘太が笑顔だったことが嬉しいかった。

低学年の頃の勘太を知る先生から「母さんに会いたいねん!」とよく泣いていたと聞いた。



幼い頃は寂しさを表出できたのに、今は涙も枯れてしまったのだろうか。泣いたり笑ったり、また勘太の心が動くようになってほしい。その願いが少し叶ったような気がした。

卒業式当日、1人の保護者が駆け寄ってきて涙ながらに言葉をかけてくださった。

「10年後のあの子の似顔絵が嬉しくて嬉しくて。大切に飾らせていただいています。あんなに素敵なお兄さんになるように頑張ってお育てます。」

それからというもの、10年後の君へシリーズは卒業生の弟妹たちの密かな楽しみになり、親御さんの間で名物となり、結局卒業制作の思い出オルゴールボックスとともに毎年の恒例行事となった。

中学生になった勘太達はどうしているだろうと考えていた頃、小中連携の職員Tシャツを作ることになり、デザインを担当することになった。

学校の祭りの日。中学校の先生方が皆Tシャツを着て子ども達と活動する。

いち早くTシャツのデザインを指差して、



「ひろセンの絵や！俺、図工の先生に似顔絵描いてもらったから。」と言っていた生徒がいたと中学校の校長先生から聞くことができた。中学生になった勘太だった。

また私に夢ができた。

先生はアートで平和の種を蒔きたいな。

少しずつでいい。

すぐに芽がでなくたっていい。

時間をかけて大切に、大切に育てたらね、

きっとかけがえのない君になる。

美しい君になる。

流した涙はね、びん瓶に溜めておきましょう。

たがや耕しましょう。愛でましょう。

瓶に溜めていた涙と一緒にま撒きましょう。

ほうらね、もっとかけがえのない君になる。

美しい君になる。



はじめてあった日から15年が経った。
25歳になった君たちに私は会いにいきたい。

卒業生たちへ

おはようございます。新しい朝、ふと君たちのことを思い出しています。

真っ白なキャンバスに今日は何を描いていますか。私は君たちが与えてくれた夢を今日も描きます。





第2次西宮市人権教育・啓発に関する基本計画

西宮市では、一人ひとりの「人権（じんけん）」が尊重されるまちをめざすため、令和元年から10年間の人権教育・啓発についての計画をつくりました。

この計画では、

- ◇一人ひとりの『**自己肯定感**』を高める～子供も大人も、みんな「大切な存在」～
- ◇一人ひとりが『**多様性**』を認め合う～みんなちがってあたりまえ～

これらの「2つのキーワード」を『一番大切にしたいこと』として、これらの視点を踏まえた取組みを進めていきます。

※文中の名前等はすべて仮名です。

人権文化の花咲くまち 西宮をめざして 21

令和2年（2020年）3月発行
西宮市・西宮市教育委員会

文・画 米光智恵

人権擁護委員をご存じですか？

人権擁護委員は、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動や、法務局・市役所の人権相談において、地域の皆さんから人権相談を受け、問題解決のお手伝いをするなどの活動を行なっています。また、電話では相談しにくい、勇気がいるなどといった子どもたちの気持ちに配慮した、手紙による『子どもの人権SOSレター』人権相談も行なっています。

- ◎法務局西宮支局での人権相談 月曜から金曜の午前9時から午後4時まで
問合せ先 ☎0798-26-0061

- ◎西宮市役所での人権困りごと相談 1階市民相談課 毎月第1・3木曜日
午後1時から4時まで（受付は3時30分まで）
問合せ先 人権平和推進課☎0798-35-3320

- ◎子どもの人権SOSミニレター 問合せ先 子どもの人権110番
平日午前8時30分から午後5時15分まで
☎フリーダイヤル0120-007-110



令和2年（2020年）3月発行

編集：西宮市

〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号 ☎(0798)35-3320